

鎌倉の大仏

鎌倉の大仏を初めて見たのは中学校の修学旅行であった。当時の教科書や絵はがきで何度も見ていただけに親近感を持って見上げていた。ここを訪れるほとんどの人は信仰心をもって拝観したわけではない。観光名所として人を引き付けるだけの魅力を持っているのだ。

この鎌倉の大仏は浄土宗の高徳院の本尊で、阿弥陀仏如来像として国宝に指定されている。高さは台座を含め 13.35m、重量約 121 トン、少し猫背気味の姿勢が特徴。実に迫力満点の仏像である。同じ大仏でも奈良東大寺は建物の中に納められているのに対し、鎌倉は露座の大仏となっている。これは鎌倉時代に建立されたものであるが、その後の暴風雨、台風、大津波などの天災により大仏殿が崩壊してしまったもの。



「大きいことはいいことだ」とのキャッチフレーズが一世を風靡したことがある。確かに大きな魚が釣れた時などは喜びの頂点となった。何事にも大きいことに価値を求める傾向にある。こうした仏像でも大きさを競って造られている。ちなみに仏像での国内の大きさでは、1 位が牛久大仏（茨城県牛久市）高さ 120m、2 位は日本寺大仏（千葉県安房郡）31.0m、10 位に奈良の大仏（奈良市）16m、そして 19 位に鎌倉大仏（神奈川県鎌倉市）13.35mと続く。世界では中国の魯山大仏で土台を入れると 153mにもなる。総重量 1000 トン。建設費は 18 億円。

私の体重は 120 kg。電車に乗っても街を歩いていても私より大きい人に会うことは珍しい。着るもの殆どが誂えで少々小さめでも我慢した。ファッションなど選ぶほどの種類もなく、全てが割高で生きていくには経費が高くつく。大きければいいというのはうそ。

撮影 2015 年春

